

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 4月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2673000127
法人名	三菱電機ライフサービス(株)
事業所名	長岡京ケアハートガーデン グループホーム 西山の郷
所在地	〒617-0853 京都府長岡京市奥海印寺三反畑8-1 (電話) 075-958-6581

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年3月29日
評価確定日	平成22年5月31日

【情報提供票より】平成 22 年 2 月 10 日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	24 人
職員数	38 人	常勤 28 人, 非常勤 10 人, 常勤換算	27.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造ストレート葺耐火建築 造り
	3 階建ての 1 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000・80,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000・300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	260 円	昼食	600 円
	夕食	800 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,810 円			

(4) 利用者の概要(2 月 10 日 現在)

利用者人数	24 名	男性	0 名	女性	24 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	7 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.88 歳	最低	73 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会京都府病院、新河端病院、上田内科医院、中島整形外科医院、中村歯科医院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは、理念に基づいたケアが出来るように常に職員で話し合い利用者本位の生活を支援されています。利用者の表情や方言を使った話し方は穏やかで、職員は日々多くのかかわりを持ちながら、その人らしく今までの生活が継続して過ごせるように取り組んでいます。利用者の出来る事や出来そうなことにチャレンジすることで新たな一面が見られたり才能が発見でき自信へと繋がっています。また、職員同士の連携もよく取られており、一人で悩まずチームケアを大切に毎日利用者と接することを喜びとして支援をされています。法人のバックアップ体制も充実しており、非常勤職員も含め全職員が外部研修や研修計画に沿って学び個々のスキルアップを図る環境が整っているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の課題であった家族の意向や希望を取り入れたケアプランを作成するなど改善点を見つけ出し取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、全職員に自己評価表を配布し思いを記入してもらったものをリーダーがまとめ、各ユニットごとの自己評価表が作成されています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族や地域住民、民生委員、市の職員、地域包括支援センター職員、他事業所の施設長などが参加する運営推進会議を2カ月に1回、開催しています。ホームから活動状況や予定、事故・苦情などを報告し、参加者から多くの意見や情報を頂き有意義な場となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に苦情意見箱を設置しています。家族の多くが参加される運営推進会議や、年2回行われる家族会で意見や要望を聞く機会があります。出された意見は、直接伝えたり運営推進会議などでも話し合い改善策を講じ運営に反映しています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議や近隣の方から情報を頂き地域行事に参加しています。毎月幼稚園からの来訪があり、中学生の福祉学習の受け入れを行っています。また、地区の運動会、盆踊りなどにも参加し交流する機会を持っています。ホームでは夏祭りや年に1回の交流会機会を持ち、近隣の方やボランティアの参加を得て食事会を兼ねて交流が行われています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に、地域と共にこれまでの生活を大切に継続した生活が出来るようにとの思いを込めて「個人の尊厳を大切に」「画一性、押し付けの排除」「地域社会との融合を図る」の3本柱としたホーム独自の理念を法人関係者や管理者が話し合い作りしました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングやユニット会議などで事例を用いて、職員は理念に沿ったケアが出来ているか話し合っています。日々の会話の中や仕事終了後も常に振り返り話し合い職員で共有しながら実践に繋げています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議や近隣の方から情報を頂き地域行事に参加しています。毎月幼稚園からの来訪があり、中学生の福祉学習の受け入れを行っています。また、地区の運動会、盆踊りなどにも参加し交流する機会を持っています。ホームでは夏祭りや年に1回の交流会機会を持ち、近隣の方やボランティアの参加を得て食事を兼ねて交流が行われています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価表は、全職員に配布し思いを記入してもらったものをリーダーがまとめました。各ユニットごとの自己評価表を作成されています。前回の改善点については、家族の意向や希望を表記したケアプランを作成するなど具体的に改善点を見つけ出し取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域住民、民生委員、市の職員、地域包括支援センター職員、他事業所の施設長などが参加する運営推進会議を2か月に1回開催しています。ホームから活動状況や予定事故・苦情などを報告し、参加者から多くの意見や情報を頂き有意義な場となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会や包括ケア会議などに市の職員の参加があり事例を用いて相談したり、話し合う機会を持っています。また、医療関係者が集まる研修会にも市の担当者の参加があり、高齢者を支える視点で共有し取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の様子や行事での楽しい様子を写真に収めた各ユニットごとのホーム便りを2か月に1回発行しています。来訪時や電話で日々の様子を伝え家族とのやり取りを記録に残しています。また、金銭管理は預かり金対応で、毎月の請求書と一緒に出納帳と領収書のコピーを送付しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情意見箱を設置しています。家族の多くが参加される運営推進会議や、年2回行われる家族会で意見や要望を聞く機会があります。出された意見は、直接伝えたり運営推進会議などでも話し合い改善策を講じ運営に反映しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年に1回職員にアンケートを取り管理者や法人部長と話し合い振り返りや気づきを促す機会を持っています。また、管理者は日々のケアや個々の相談に乗っています。離職者は少なく職員同士でも常に話し合いや意見交換をしながら悩まずチームプレーでのケアを大切にに取り組んでいます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	非常勤職員も含め希望や該当する職員が外部研修に参加しています。参加後は、報告書を提出し毎月の会議で発表し伝達研修をしています。また、法人やホーム内での研修計画を立て、外部からの講師を招いたり知識を個々に活かせるようにスキルアップに繋がっています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は乙訓グループホーム連絡会や京都府グループホーム連絡会に加入し、見学や研修に参加しています。また、法人内のグループホームでの行き来や管理者は事例検討を用いて発表し情報交換や悩みを相談する機会を持っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前、見学や希望があれば体験入居も可能で、納得して入居が出来るようにしています。入居後は家族の協力も得ながら電話や訪問、散歩を一緒にしてもらい、職員はコミュニケーションを取り傾聴しながら利用者の気持ちになってのケアに取り組み、少しずつ馴染んでもらえるようにしています。また、携帯電話を利用していつでも家族と安心して連絡が取れるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側・される側の関係を持たず、今までの経験の中から料理や洗濯の干し方、たたみ方、編み物など利用者の出来る事を生活の中に取り入れ教えてもらっています。また、利用者の生きてこられた時代のことなど日々多くのことを職員は学んでいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	法人独自のフェースシートやセンター方式を使用しながら利用者や家族から多くの希望や意向を聞いています。日々一緒に生活する中で利用者の言葉や顔の表情なども見逃さず思いを把握できるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を取り入れ、毎月の会議でカンファレンスを行い職員の意見も取り入れ一人ひとりに合わせたケアプランを作成しています。また、退院後の介護サマリーや今まで使っていたサービス事業者からの情報、在宅療養手帳なども参考にしています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3か月ごとにアセスメント・評価を行い定期的に行い、毎月のモニタリングで現状に合っているかを確認しています。状態に変化があればその都度見直し、かかりつけ医や訪問看護などからの意見も参考に現状に即して見直しに繋がっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や喫茶店、散歩、墓参り、選挙、教会への送迎など希望があればいつでも一緒に出かけられるようにしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用に当って、今までのかかりつけ医の継続が出来る事を説明しています。乙訓地域の医師の連携により、個々のかかりつけ医の2週間に1回の往診や訪問看護による月3回の来訪があり、安心した生活を送れる体制にあります。また、訪問歯科や皮膚科など希望や要望があれば来てもらえるように支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時ターミナルに関して、ホームの考え方を伝え、医師も交えて家族と話し合い、現状の説明を行ったうえで同意書を交わしています。職員間で話し合う機会はあったが、更に医師や家族、職員が1つになり利用者にとって一番良い支援が出来るような機会を作るよう検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	穏やかな言葉遣いや対応がなされています。排泄や入浴についてプライバシーに関する研修を職員は受講し、徹底した対応が出来るように努め、気になることがあれば職員同士で注意し合っています。また、個人情報の記録物は事務所の鍵の掛るキャビネットに保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操をする時間は決まっていますが、起床から睡眠まで利用者のペースやリズムに合わせた支援をしています。職員は利用者が今何をやりたいかを感じ取り、声かけしながら希望に沿った日々を過ごしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者から配達された食材を利用者と一緒に準備から後片付けまでしています。また、誕生日や食べたい物の希望があれば、一緒に買い物に行き作っています。入居時には茶碗や箸、コップを持ってきてもらい、職員も同じテーブルで同じ物を食べ会話を楽しみながら頂いています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝から16時30分位まで毎日準備し、希望に合わせて入浴しています。浴槽に入りやすいように福祉用具を使ったり近隣の方から頂いた柚子や菖蒲などを使い楽しみながら入れるようにしています。また、入浴拒否傾向の利用者には職員の工夫した対応で入れるようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭の草引きや分別ごみ出し、残飯を肥料にするなどの役割を進んでされています。編み物や習字、絵を描く、居室でオルガンを弾くなど個々に楽しみを持っています。また、今まで広島に千羽鶴を送っていた経過がある利用者には継続して送れるように皆で折ることが楽しみの1つになっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出かけています。畑や庭の花の水やり、神社、ドライブなど希望に沿って出かけられるようにしています。また、重度化が進んできましたが、家族の協力も得ながら出かけられるよう取り組んでいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関は施錠していません。ホーム前は交通量が多いことや家族の希望で2重のフェンスを取り付けていますが、自由に開けられるようになってきました。鍵をかける事も身体拘束になることを運営推進会議で話し合い、職員は見守りを怠らず居場所の確認をしています。また、安心のため利用者の希望で居室に鍵をかけている方もいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回昼夜想定で避難訓練を行いました。消防署立ち会いのもと1回行い、ホーム独自でも出火の放送を流し訓練を行いました。運営推進会議で避難訓練の参加や協力を参加者に呼び掛け、近隣に法人の寮があり何かあれば駆けつけてもらえるようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が立てた献立でバランスの良い食事を提供しています。食事量や水分量は毎回記録しています。食べやすいように一口大に切ったり、医師からの指示や水分が摂りにくい利用者にはゼリーを使用するなど状態に合わせた支援をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく見通しがよく、利用者の手作りの作品や皆で作った張り絵や千羽鶴、季節の花などが飾られています。廊下には歩きやすいように手すりを付け歩行訓練をしています。また、テレビ前には、ソファを置きゆっくりと過ごせるようにしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にボランティアが作られた表札が掲げられています。二間続きの居室もあり、炬燵を置き寝室と分けて使われています。テレビや仏壇、ベッド、タンス、オルガン、鏡台など今まで使っていたものを家族と相談しながら持ち込んでもらい人形や習字などを飾り居心地良く過ごせるように工夫しています。		